

レポート (日本PTA国内研修事業) 平成27年度国内研修in 渡嘉敷村(沖縄県)

沖縄渡嘉敷島を訪ねて

横手市立横手明峰中学校3年 佐々木 大成



わたしは、沖縄研修と聞いた時、期待と不安でいっぱいでした。しかし行ってみると、全国の人達とのふれ合いを通じてすぐに班でまとまることができました。私は心配していたのが嘘のように楽しい研修を過ごしました。

最も心に残ったのは平和学習についてです。渡嘉敷島で起こった集団自決についての話をうかがいました。当時の話を聞くと、今では考えられない集団自決の理由や戦争当時の沖縄県との関わりを知り、いかに今が平和か実感することができました。また渡嘉敷島は豊かな自然があり、特に透き通るような青い海は今でも忘れられません。

横手市立横手明峰中学校3年 永瀬 萌楓

5日間の研修では様々なことを学ぶことができました。鼎談やワークショップで島の現状や文化を知り、平和学習では今の時代に生まれたことを幸せだと改めて感じ、海洋研修では美しい環境を守る大切さを体験させて頂きました。



初対面の中生と話すことに初めは戸惑いましたが、自分から話かけるとすぐに打ち解け、最終日には強い絆を感じられました。

この研修で、私は地域に根付いた文化を守ることの重要性和、人と人との関わり方の深め方について学ぶことができました。このような体験を支えて下さった全ての方々に感謝したいです。ありがとうございました。これからも「チャレンジ」し続けます。



熊本地震募金

熊本地震へのご協力ありがとうございました

日本PTA全国協議会の依頼により、皆様からご協力いただきました「熊本地震」義援金ですが、おかげさまで全県の小中学校のPTAから3,967,334円(6月30日現在)の募金を頂くことができました。今回は、被災地である熊本、大分の方に届けるとのことですが、使い道は現地のPTAなどで話し合い決めるそうです。

皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。

facebook はじめました。

「秋田県PTA連合会」で検索をし、ご覧下さい。最近の行事、活動などをアップしていきたいと思ひます。

PTA連合会事務局長名簿

- かづの 大館北秋田 能代山本 湯上南秋田 男 鹿 秋 利本荘 由 にか 大仙 美 湯 福司 登志子 藤田卓 吉田信 戸田山 嶋村昌 菊地敏 細石川 照井 尾鎌 田 志 裕 弥 彦 市 光 吾 円 樹 久 博 功 小坂小学校 坂東中学校 東湖小学校 船川第一小学校 川尻小学校 新山小学校 象湯小学校 大曲西中学校 神代小学校 六郷小学校 横手明峰中学校 湯沢東小学校

平成28年度広報紙コンクール

今年度の審査会は、平成28年5月7日に県生涯学習センターで行いました。審査員として、外部から秋田大学の高橋康弘氏、県教育委員会の森川勝栄氏をお迎えしました。応募総数は、52紙(小学校32紙、中学校20紙)でした。講評では、学校報とPTAの広報紙との違いをどのように出していかなどの助言をいただきました。

優秀作品は、平成28年度総会において表彰され、入選作品が全国コンクール(日本PTA主催)に出品されます。

- 〇入選 小学校部門 ・男鹿市立船越小学校PTA「ひろば」 ・秋田市立旭北小学校PTA「kyokuhoku」 ・秋田市立四ツ小屋小学校PTA「かけはし」 ・秋田市立勝平小学校PTA「かつひら通信」 ・秋田市立八橋小学校PTA「やばせ」 ・横手市立朝倉小学校PTA「すくらむ」 〇審査員特別賞 ・潟上市立東湖小学校PTA「東湖」 〇入選 中学校部門 ・秋田市立山王中学校PTA「PTA山王」 ・秋田市立外旭川中学校PTA「しらはと」 ・秋田市立城南中学校PTA「城南」 ・秋田市立勝平中学校PTA「松籟」

安全互助事業について

秋田県PTA連合会のPTA安全互助事業につきましては、平成28年度から負担金を800円から1,000円に増額し、賠償支払い限度額の増額など補償内容を変更しました。PTA会員の皆様には大変ご負担をお掛けいたしました。今年度の小中学校の加入率は、98.4%になりました。

Table with 2 columns: 傷害事故, 賠償事故. Rows for 平成27年度 and 平成28年度.

日新火災 日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔のみえるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。 お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して 秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社 日新火災海上保険株式会社 秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255

PTAあきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～



2016.7.20 No.131

【発行】秋田県PTA連合会 【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内 TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935 E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp http://www.pta-akita.com

新しい学校としてスタートしました!!



八峰町立八峰中学校



由利本荘市立大内小学校

平成28年度から新統合校から



秋田市立雄和小学校



羽後町立羽後中学校

平成28年度の定期総会が、6月4日(土)秋田県教育庁の沢屋生涯学習課様はじめ、ご来賓の方々のご臨席を頂き、「ルポールみずほ」で行われました。役員改選では新役員が選出され、6年間会長を務められた加藤 寿一氏が顧問になりました。新たに野崎一氏が新会長に選出されました。



ごあいさつ 秋田県PTA連合会会長 野崎 一 (秋田市PTA連合会会長)

平成28年熊本地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興が果たされ、平穏な日々を取り戻せるようお祈り申し上げます。

本年6月4日に平成28年度定期総会が開催され、多くのご功績を残された加藤前会長の後を引き継ぎ会長の任を仰せつかりました。微力ではございますが子ども達のために力を尽くしてまいります。

さて、子ども達を取り巻く環境は日々刻々と変化しています。ネットから入ってくる情報は格段に多く、好奇心旺盛な子ども達

はそれを柔軟に吸収し、良い悪いにかかわらず活用できる力を持っています。しかし私達は常に見守っていることはできません。我々保護者は変化に対応できる知識を持ち、家族間で話題にし、理解を深め、子どもの小さな変化に早期に対応していく必要があります。子どもが自身で考えしっかりと判断し自分で身を守っていけるように家庭教育を充実させ、学校、地域と一緒に子ども達を細やかに守っていきけるような体制を作っていきます。

また、東日本大震災を始め、熊本地震など、各地で大変な災害が起こっています。本年度は東日本大震災から5年という節目の年でもあり、親子で被災地宮城県に赴き、現地の現状を研修する事業を行います。秋田の子ども達に被災地の今を知ってもらい、人と人の絆、思いやりの心を育んでもらうと共に、防災意識を高め、更に秋田への郷土愛を深めてもらいたいと思ひます。

「愛してやまない子ども達のために」

同じ子を持つ親として共に活動し、互いに高め合い、親もまた子どもと共に成長していくPTAでありたいと思ひます。今年度も引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



### 今の私ができること 秋田県PTA連合会 副会長 竹嶋美佳沙 [能代市山本郡PTA連合会会長]



小学校・中学校とそれぞれPTA役員を務めさせていただき4年目となります。これまで多くの学校、PTA会員の皆様に協力いただいたおかげで各行事、役員会等に参加させていただくことができました。大変なこともあります。一つ一つの経験は保護者としてだけでなく、一社会人としての学びも多くありました。子ども達が与えてくれた貴重な機会だと思い取り組ませていただいています。現在では所属PTAの枠を越えて、郡市、県という広いつながりを持たせていただいています。

振り返れば、役員となった始めの頃は、市教育委員会の取り組み、秋田県としての教育に対する取り組みなど保護者として知っておくべきことをほとんど知りませんでした。大切な子ども達を社会へ送り出すために親としてどう向き合うべきか。学力だけではない「教育」というものを多くのPTA会員に知っていただくために、今後さまざまなPTA活動に取り組み、私ができる「情報発信」をしていくことができると思っています。

### PTA役員のおもしろさ 秋田県PTA連合会 副会長 鈴木 勉 [由利本荘市PTA連合会会長]



私はPTAの役員をかれこれ6年間やらせていただいています。学校の中には、役員を決めるのに苦労されているところもあると聞いています。私も関わる前は全く興味さえありませんでした。縁あって会長を引き受けてからは、楽しくてしょうがなくなってきました。私みたいな人は少数だと思いますが、役員をやり始めたら考え方が変化して、自分が新たに成長しているように最近思えてきています。

PTAは時間が限られています。私は小学校の閉校、そして新設校の開校に携わりました。そのため130年以上続いた学校の最後の会長とこれから長きにわたり続くであろう新設小学校の初代会長を務める事が出来ました。誰もができる経験ではないと思います。

今役員を引き受けていらっしゃる方、これから引き受けられる方、貴重な経験ができる機会と考え子どもと一緒に成長させませんか。やるからには楽しんで、なっちゃったら楽しく頑張りましょう。子どもとも自分のために。私も残り3年。必要とされるならばどンドンやっつけようと思います。友達もいっぱいできたしPTAは楽しいですよ。

### ふるさと先生 秋田県PTA連合会 副会長 吉村 昌之 [秋田市PTA連合会事務局長]



先日、小学校の「まるごと公開」に行ってきました。川尻小学校では「まるごと公開」の中でふるさと集会・交流活動の時に地域の「ふるさと先生」がそれぞれの学年に先生として教壇に立ちます。1年生は[昔遊び]、2年生は[野菜作り]、3年生は[歌・音楽]、4年生は[茶道・俳句・郵便のお話]、5年生は[竿燈まつり]、6年生は[雅楽]です。私は5年生の竿燈まつりを担当する「ふるさと先生」でした。

竿燈とは「何ぞや」から始まり、竿燈の起源、成り立ち、竿の長さ、提灯の数、重さ等質問形式で子どもたちと楽しい時間を過ごしました。子どもの悩む顔、困った顔、正解して喜んだ顔、大きな声、小さな声、笑い声、様々な顔を見せてくれる子どもたちと一緒にって同じような顔をしていたように思います。

PTA活動は一見とても大変で言葉は悪いですが面倒臭いと思う方が多いと思います。しかし、子どもと同じ目線で同じように感じられる時間を過ごせば、とても楽しい時間が過ごせると思っています。是非とも愛して止まない子どもたちと楽しんでみてください。

## 平成28年度 秋田県PTA連合会 役員一覧

会長	野崎 一	秋田/勝平中P	委員	森川 佛一	美郷/六郷小P
副会長	竹嶋 美佳沙	能代山本/能代東中P	同	齊藤 勇人	横手/横手明峰中P
同	鈴木 勉	由利本荘/岩城中P	同	芦原 真澄	湯沢雄勝/湯沢東小P
同	鈴村 昌輝	秋田/川尻小P	幹事	梶木 良和	かづの/大湯小P
同	山崎 精輝	大仙/大曲西中P	同	佐々木 美奈	大館北秋田/鷹巣小P
参与	林崎 勝生	県小学校長会長/築山小	同	塚本 真一	能代山本/能代第一中P
同	奥 瑞	県中学校長会長/山王中	同	藤田 達光	湯上南秋田/井川小P
監事	阿部 泉	かづの/草木小P	同	小玉 博	男鹿/男鹿東中P
同	佐藤 勝史	男鹿/湯西中P	同	利部 忠幸	秋田/広面小P
委員	橋本 琢史	大仙/協和中P	同	菊地 広志	由利本荘/由利中P
同	福松 正希	かづの/小坂小P	同	渡部 雅史	にかほ/金浦中P
同	松橋 史尚	大館北秋田/鷹巣小P	同	田村 翼	大仙/仙北中P
同	鈴木 裕雲	湯上南秋田/東湖小P	同	藤原 淳悦	仙北/中川小P
同	古池 仲成	男鹿/男鹿北中P	同	佐藤 慎太郎	美郷/六郷小P
同	田智 成	にかほ/象潟小P	同	備前 慎太郎	横手/大森小P
同	平岡 太一	仙北/神代小P	同	阿部 榮司	湯沢雄勝/羽後中P

## おめでとうございます 平成28年度 秋田県PTA連合会 表彰一覧

(所属名)敬称略

<b>団体</b>	<b>個人</b>		
鹿角市立十和田中学校PTA	黒沢 書彦 (草木小P)	曾 久 (河辺小P)	照 春 (仙南小P)
大館市立桂城小学校PTA	菅原 純 (釈迦内小P)	我 毅 (飯島小P)	小 田 泰 (横手明峰中P)
湯上市立大豊小学校PTA	藤原 司 (綴子小P)	菊地 幸 (由利中P)	佐 誠 (雄物川小P)
男鹿市立脇本第一小学校PTA	藤原 宏之 (大湯小P)	福田 淳 (西目中P)	菅 孝光 (湯沢東小P)
由利本荘市立岩城小学校PTA	吉田 喜継 (男鹿東中P)	菅原 練悦 (金浦小P)	
にかほ市立上浜小学校PTA	青木 巖 (保戸野小P)	鈴木 幸 (南外中P)	
仙北市立神代中学校PTA	加賀屋 聖一 (下北手中P)	千葉 朋穂 (豊成中P)	
美郷町立千畑小学校PTA	佐藤 伸 (城南中P)	村 克広 (角館中P)	
横手市立醍醐小学校PTA			

## 秋田県小・中学校 PTA会長会議



### 本県の義務教育について

秋田県教育庁義務教育課長 佐藤 昭洋

秋田県には、「じゅんさいの収穫量」や「スギの人口林の面積」など、平成27年9月の発表では日本一が35ありました。そのうち、子どもに関する日本一が14もありました。(県企画振興部調査統計課作成資料による)。また、昨年度、観光ボランティアガイドの活動等を行い、キャリア教育優良文部科学大臣賞表彰を受賞した鹿角市立十和田中学校など、多くの学校やPTAが全国規模の表彰を受けました。

昨年3月、県教育委員会では、家庭や地域の教育力など、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を、次の七つの項目にまとめ、「秋田わか杉 七つの「はぐくみ」」として様々な場で発信しております。

1. 早寝 早起き 朝ごはん 生活リズムは全ての基本
2. 元気なあいさつ 明るい返事 規則 約束 守るわか杉
3. 読んで 話して 書いて 高める「問い」を発する思考力
4. 問題解決 子どもが主体 授業の続きは家庭で学習
5. 職場体験 インターンシップ 地域で育む子どものキャリア
6. 学校や地域の話題で語り合い 将来の夢 家族でえがく
7. ふるさとを支える自覚と志 みんなでつくる未来の秋田

ふるさとを愛し、ふるさとを支えていこうとする意志をもった人づくりが大切です。私は、若かったとき、子どもたちを勝たせるために、熱心に部活動に取り組みました。優勝旗は持ち帰ることができましたが、同じ部活動のある高校に進学したのは一人だけでした。勝つ指導はできましたが、心を育てる指導ができていなかったと感じております。心を育て、こうやったら秋田がよりよくなるのではないかとこの思いを起こさせ、秋田のために何かをしようという子どもを育てることが大切です。学習においても、点数をあげるためだけに勉強するのではなく、ふるさとを支えるという将来の目的を実現するために勉強をする子どもたちを育てていくことで、本県の将来、子どもたちの未来は明るくなると信じています。そのような環境整備に皆様とともに力をあわせ取り組んでまいりましょう。

### 第七次秋田県高等学校総合整備計画について

秋田県教育庁高校教育課長 佐藤 有正

現在秋田県の高等学校の数は55校(26,003人)で公立学校が50校(23,505人)、私立学校が5校(2,498人)です。その内全日制が49校、定時制が6校、通信制が1校となります。また、高等学校は小中学校とは違い、普通科・農業科・工業科などの各学科があります。このように、高等学校では、多様な学習形態により、様々な教育内容が提供されています。

中学校の卒業生は昨年度9,124名で平成37年には6,890人、平成52年には4,211人に減少すると予測されています。このような中、高校教育の質を高めていくため、平成28年度から10年間にわたる第七次総合整備計画を策定しました。計画の柱として、「社会を生き抜く力と高い志を育てる教育活動の推進」「活力に満ちた魅力ある学校づくりの推進」を掲げ、未来の高校生がそれぞれの目標を実現することができるよう、教育環境の充実を図ることを目的としています。

高等学校は、一定の規模があった方が、多様な個性との出会い、社会性の育成、教職員数の確保による教育課程の充実などの教育効果を発揮することができます。小規模校については、2~3校を発展的に統合し、新しい学校にすることを基本として、地域に根ざした教育活動を行っていくというのが基本的な方向性です。

新しい学校ができるまでは、平均約10年かかります。教育環境を整え、生徒の興味・関心、適性などに応じて教育を受ける機会を充実し、人材を担い、その活性化に貢献できる人材、秋田や我が国の成長を牽引できる人材を育成する高校づくり、そして、10年後、20年後に、その地域の子もたちをどのような高校で学ばせるべきか、ということを考えながら、今後の高校教育を進めてまいります。

### 横手市の若者支援について

横手市健康福祉部地域包括支援センター 保健師主査 佐藤 学

横手市の若者支援は平成19年に始まりました。そのきっかけは、当時、市長宛に送られてきた一通の手紙でした。

「若年無職者は、長い期間にわたり人間関係が希薄となり、家族以外とのコミュニケーションがうまくとれなくなっているため、同じ境遇の仲間と出会う居場所が必要です。そして、若年無職者には会社に就職して仕事をする前の段階が必要です。そこで、自分たちで何かを始めたいののではないかと思いました。そして、その居場所で様々なことを経験し、自信を持ってから自立へと向かえるような受け皿が必要だと思いました。各関係機関が連携をして、そのための支援と協力をしていただけないでしょうか？また不登校や引きこもり、ニートの子を持つ親同士が集まってお互いに会話をする事で気持ちを楽にする場所も必要だと思います。」

この手紙を受け、居場所の提供を始めましたが、継続して参加するのは二人。ある日、一人の若者が「自分と同じような年頃で、同じような苦しみや悩みを抱えている人と話したい。」と声をあげました。そこから、本当の意味での若者支援が始まりました。それが、週に一度のグループミーティングです。若者たちに共通するテーマは「家族」でした。そして、10年たった今も「家族」がテーマです。若者たちの永遠のテーマが「家族-親子関係」なのです。

グループミーティングは、目標とルールを決めることが大事です。何のためにきているのか、それを見失わないために目標を分かり易く設定しています。

1. 自分の思いを言葉にする
2. 聞き上手になる
3. 1時間参加する

若者たちは、自分の思いを言葉にすることがとても苦手です。また、自分の思いを言葉にしたいと思っています。「話してもいいんだよ。」ということもミーティングという場で経験を重ねることで、自己肯定感を高めることにつながります。しかし、最初の一年間は一言も話さずに帰る若者もいました。その沈黙が大切なのです。他人の話を聞くことで自分の気持ちを整理しているのです。話しをすることでトラブルになったり、否定されることが多かった経験から、相手の話を聴くという訓練もして来なかった若者も多いわけで、聞き上手になることもとても大切なことです。

ルールは4つあります。このルールがあったことで安心して参加できたと聞いています。

1. 相手の意見を否定しない
2. 秘密を守る
3. 聞くだけの参加もOK
4. 退席時は断りを入れる

小学校高学年から中学生にとってもグループミーティングはとても有効です。スクールカウンセラーのところには、周りの目もありません。普通と言われている子ども自分の思いを言葉にできていない子がたくさんいることを知りました。

グループミーティングはとても効果的です。参加した若者からも「自分と同じ考えを持っている仲間に出会い、話をする事で居場所を見つけることができました。」「自分だけではないと安心しました。ただただ聞いてもらえるだけで心が軽くなった気がしました。」などの感想をもらっています。

若者たちは、参加することで「聴く力」「語る力」「相手の思いを受け止める力」をつけ、その力を役立てていこうとしています。それが講演活動です。引きこもりの若者達が秋田大学横手分校で「ミニミニ教育実習」という教育実習生に話をする場を作りました。昨年秋田大学にも行っています。また、得意分野を活かして教材作りや農作業などの社会活動や就労体験もしています。雇い主が理解をしてくれないとなかなか難しいですが、理解をしてくださる方も多くいます。地域の方とつながることが若者たちの可能性を広げることにつながります。

できる範囲で、マイペースで、息長く続けていくことが大切です。